

*****ここから『電子耕』*****

【隔】週刊「74歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第27号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.3.2 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

*****発行部数 1352+52 部*****

<キーワード>

農業を中心として健康・食べ物・図書・人物・庶民の歴史をめぐる雑学情報を提供し、<読者の声>欄でお互いの意見交換の場を作りましょう。

<本誌記事の無断転載を禁じます、教育目的の転載も承認を求めて下さい>
投稿メールは500～1000字をめやすとして下さい。最近の<読者の声>に掲載します。都合の悪い方は「載せないで」と明記して下さい。ペンネームの無い方は姓だけで載せますので、ご了承ください。編集者は原則として手を加えないので内容は他人に迷惑をかけないように自己責任でお願いします。

目 次

<読者の声>風さん、T-Yさん、猫太郎さん、愛鶏園斉藤さん、川口さん、
依田さん、田んぼのおばさんへお答、

<舌耕のネタ>もしも食糧輸入が止まったら

<農業・図書情報>山崎農業研究所編『食料主権』発売はじまる

<農業・国際情報>WTOにたいするNGO国際シンポ

<新聞・図書情報>「日経流通新聞」・「ヘルス&ケア」記事案内

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけではなく、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。

■2/17 風さんより

ペンネーム「風」より

◎No.26-2000.02.17号 onesto さん へ

地球の人口が増えていることは確かですが、それと現実に発生している戦争

との因果関係はありますか？

僕には理解できませんが・・・。

◎ 「卒業生の母」さん へ

僕らが10代の頃、「全共闘」の人達がありました。卒業式の君が代反対どころではないぐらい、10代のの思い出は、ぶち壊されました。

なぜああいうことが起ったのか、ずっと考えてきました。

そして、ちょうどあの時代、「減反政策」が始まったことを知りました。

戦争難民キャンプの子供達が戦争や殺人の絵しか描けないように、対立は、子供の心を傷付け、そしてその傷は大人になっても残ります。

でも、子供は「なぜ」を問い続けることが出来ます。

=====
■ 2/17 T-Yさんより

はじめまして、T-Yと申します。

ときどきですが、興味半分で読ませていただいています。

今年で22歳ですが、確かに『君が代 日の丸』には巻き込まれたような被害者意識がないわけでもありません。

／今日の『日の丸／君が代』の法制化は、自民／自由／公民のデモンストレーションのような気がしますし、感情的な国民の主観よりも、政治手段につかわれたような気がします。

／屁理屈でわざわざ法制化するほど『国旗／国歌』は今の国際社会に適した題材なのでしょうか？地球や、地域社会に目が向けられている今日にあって、『日の丸 君が代』の議論は独善的な判断だと思うのはおかしいことでしょうか？

／同じ世代の仲間達が外国へと旅立ち、自らの国を選ぼうというのに、『日本』はその選択詞に入るのだろうか？

少なくとも『日本』という組織が農業の為に存在していないような気がします。

『君が代／日の丸』を掲げても実りがよくなるわけではないんでしょうから。

以上

若輩者の意見ですが、感じるものがありましたので投稿をお許してください。

T-Y

=====

■2/18 猫太郎さんより

o n e s u t o さんへ

あなたのご意見うかがいました。

しかし、私は神様を信じませんので、もう、おしまいですね。

猫太郎より

=====

■2/18 猫太郎さんより

お元気になられて、また、元のようなメールを読ませていただいて、嬉しくおもいます。

三寒四温といいながらも、まだまだ、寒さは続きます。十分お気を付けてください。

ここ名古屋は12年ぶりの大雪で、雪かきに追われています。雪かきの要領がわるいので、なおさらです。

今回の<舌耕のネタ> シニアネットのおすすめ 興味深く読ませていただきました。

今年の私はm a g 2で福袋が買えた事がうれしかったです。福袋が届くまでは、上手く申し込みが出来たかどうか、心配でしたから。遠くにいる、子供達やお嫁さんともメールでやりとりしています。お料理の仕方とか、車をぶつけられて、悔しいとか・・・1日1回開けるのが、楽しみです。

以前 紹介された<長寿の秘訣は食にあり>

<死ぬまで元気に食べ方革命 >書店で注文して、届きました。

もうお肉はあまり食べなくなっていますが、いろいろ勉強します。野菜は家中大好きなのですが、私のレパートリーが少ないものですから・・・

無理をなさらないで、風邪などひかれませんように。

ペンネーム 猫太郎

コメント：お気使い有り難うございます。まだまだ本調子ではないのですが、少し回復しました。ぼちぼちやります。

=====

■2/20 愛敬園の斉藤さん、

愛鶏園の斎藤富士雄です、思い出していただけますか？
農工大S34年卒（農化）です、埼玉で養鶏をやっております。
土曜日の「日経流通」にて先輩の勇姿！？を拝見いたしました。
私どものところでも、息子の力をかりて「玉子屋の手作りホームページ」
を2ヶ月ほどまえからはじめました。<http://www.ikn.co.jp/>
個人が自由に発信できる楽しみはまた格別です。
「電子耕」のバックナンバーぼつぼつと拝読させていただきます。

コメント：創設者の斉藤虎松さんには農文協で本も出して頂き大変お世話になりました。玉子屋の手作りホームページ拝見しました。『電子耕』の読者も消費者が多いのでときどき情報を提供してください。

=====

■2/22 愛媛の川口さんより

先日、新聞にて先生の記事を拝見し是非、メールマガジンを拝読したく思い、メール致しました。

小生は、45才で会社員です。
義父は、去年まで実弟と二人で、冷凍食品の会社を経営していましたが、60才に成るので、年金を受けるのを機会に、退職致しました。

今までは、会社勤めと農業でしたが今は農業専門になり、時間もあり、いろんな作物を作っては、持って来てくれます。

先日の、日曜日みんなで、食事をした時に作物のデータの話に成り、今は全てが勘だけを頼りに、やっているようなので、パソコンを活用することを奨めました。私たちも、サポートして行くつもりですが、年のことを気にしております。

たいへん失礼ですが、先生の話を読めば、少しは自信がつくかも分かりませんか？
何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

川口

コメント：お父さん60歳ならお若い。パソコンに慣れたらどんどん情報が入ります。インターネットは時間の余裕のある人が勝ちです。お説のように農業は作物づくりも販売も勘だけではやって行けない時代です。いろいろなデータが蓄積されています。それを利用しないと損をします。一度、農文協のルーラルネットを開いてみて下さい。農業関係ではいちばん多くのデータがあります。

=====
■2/22 依田さより

卒業式のシーズンになりました。
また、君が代問題が取り上げられる時期でもありますね。

一昨年、下の子が保育園を卒園する時は、ちょっとホッとしていました。キリスト教系の園でしたので、君が代も無く、信仰を持たない私でもなんとも言えないあたたかい雰囲気につつまれながら、式に参加できたのです。
ホッとした理由は、子供のお友達が、韓国から来ていたからです。共に卒園するその子供のお母さんとは、母国語を教え合う仲でしたし、付き合いのなかで、彼女の知り合いが昔、日本の軍人に陵辱されたと知りました。

私達は、お互いに戦争を知らない世代です。
それでも、彼女が留学する夫について来るときには、恐ろしい日本人がいる国へ行くなんて、と思って泣いたそうです。けれど実際は、小さな庭を丹精込めて美しい花々で彩る、心の優しい国民が住む国だった、と言ってくれました。

国同士の、様々な問題をニュースで見るたびに、私達の、小さな生活の、さ

らに小さなひとときに起こる出来事を思います。

私の子供は、幼い時から韓国名にも、韓国語にも（ほかにも、中国、アメリカも）触れていますから、自分のクラスにいることを、特別に考えていません。

本当に、良い時代です。ですから、今年の卒業式、我小学校ではどうなるのだろうか、友人はどう思うのだろうか、と考えてしまいます。

依田

コメント：こどもは差別しない、に感銘。世界は一つの思想がだんだん広がるといいですね。

=====
●田んぼのおばさんへ、『電子耕』26号にありました質問への答です。

1、150キロのコメで酒作り：ご存知でしょうが福生市の石川酒造

<http://www.gws.ne.jp/home/tamajima/>

に聞きましたが、やはり「玄米1トン以上でないと仕込ができない」と。ただ「朝日か読売新聞で、小規模の桶でやってる酒造会社があるのを記事でみて、よくやってるなと思いました。インターネットで探して見たら」と言う事でした。

泉橋酒造

（田植えから始める、「あなたの酒を作りませんか」コーナーがあります。）

<http://www.sphere.ad.jp/izmibasi/jpn/jpnhome.html>

地酒メーカーリストホームページ

<http://sakewww.sho.ichi.org/>

をたよりにお探し願えませんでしょうか？

Yoshikazu Isono さんの Fermented Foods & Drinks

<http://www.biwa.or.jp/~y-isono/>

に、清酒造り（高温糖化速醸もと三段仕込みによる方法）

<http://www.biwa.or.jp/~y-isono/howto/sake.html>

という記事もあります。

（一部単位が表示されていないのは酒税法の関連でしょうか）

『趣味の酒づくり ドブクをつくろう実際編』

笹野 好太郎著 四六判 264 頁 定価 1330 円 (本体 1267 円)

ISBN4-540-81063-4

ほんものの酒を手造りで楽しむ。蜂蜜酒など入門編からワイン・ビール・濁酒・清酒など中級編、ブランデー・焼酎・ウオツカなど高級編まで、造り方の実際を図解・写真を豊富に使った決定版。1982年2月25日 農文協発行
もご参考にどうぞ。注文できます↓

<http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/isbn.cgi?isbn=ISBN4-540-81063-4>

2、麦の製粉方法：これも小規模なら昔からの石臼にたよるしかないでしょう。
3、イノシシに食べられない野菜：誰に聞いても大笑い、そんなものがあるだろうか？、という話から高い棚を作って上に成るもの、例えば瓜、へちま、いんげんなどはどうだろうと、いずれも「舌耕の徒」の発言です。ごめんなさい。

<舌耕のネタ>もしも食糧輸入が止まったら

朝日新聞に「一からわかる」という主張・解説欄がある。2月26日は食糧自給率についてQ&A式のわかりやすい解説だった。『電子耕』の読者にもぜひお勧めしたい記事。Q食糧自給率って何、Q自給率はなぜ下がっているの、に続いて、Q「輸入が止まったら」に注目した。戦争や天候不順でまったく輸入できなくなったら「サツマイモを混ぜたご飯に、おかずはふかしたジャガイモといった暮らしが待ち受けているかもしれない」と言う。くわしくは朝日新聞にゆずるとして、私たちが食べる肉・乳卵類、食用油などの原料である飼料・大豆の大量輸入が自給率の低下をまねき、レストランや家庭の食べ残し、外食産業の出す生ゴミが年間600万トンもあるという。これらが家畜のえさに回れば輸入が抑えられるという現実を知って対策を考えることである。

私たちの食生活を見直す契機にしたい。今回はつづいて堅い話で恐縮であるが、つぎのような「食料主権」発行と「WTOの対するNGO国際シンポ」の情報をお送りします。

<農業・図書情報>山崎農業研究所編『食料主権』農文協発売はじまる

緊急提言『食料主権一暮らしの安全と安心のために』が3月上旬全国の書店の店頭に並びます。この内容は前にも紹介しましたが、41人の執筆により、

次のような構成になっています。

- 1、食料主権とは何か―その主張と背景
- 2、食料自給を支える資源・技術・営農
- 3、食の安全と安心を求める地域からの挑戦
- 4、農村の多面的機能に公的支援を

(簡単にそのポイントを同書「あとがき」から紹介致しましょう)

あとがき・・・長寿社会に赤信号・それはあなたの問題・・・原田 勉

この本の執筆者は大部分が六十歳以上の人である。この人たちは第二次世界大戦中と戦後に生きて食べ物に飢えた経験がある。それだけに食料問題には敏感である。現在は長寿社会に生きているが今後のことを心配している。例えば、「一部の医学者が、医療技術の進歩が寿命を延ばしたと主張するのは間違いだ。食のライフスタイルこそ、病気やその因子を減らす要因がある」というのは東京都老人総合研究所の柴田博副所長である。欧米とアジアの中間の真の特異な栄養状態を確立したのが日本の長寿の秘密だと言う。この点は賛成で日本型食生活こそ世界に誇れると思っている。

ところが、いま問題なのは、日本人の食生活の基本である食料の安全・安心の確保である。このたび山崎農業研究所の総力をあげて編集したこの単行本「食料主権」がその問題を提起している。

そもそも「食料主権」とはなにか、耳なれない言葉であるが、巻頭論文にある、NGOによれば「あらゆる諸国がいかなる報復措置をうけることなく、自らが適切と考える食料自給ならびに栄養品質の水準を達成するための主権」のことであり、「自らの食料安全保障政策を決定する権限」のことである。また、農業生産者によれば、「食料主権は、生産から販売、消費にいたる戦略と政策を決定するための国家と地域社会の自由であり、力量である」

つまり、暮らしの安全と安心を守るための食料を確保する権利とすることができる。なぜこのような提言をするか、それはわが国の食料自給率がますます落ち込んでいる。しかも、国際的穀物メジャーや国際的遺伝子組み換え組織による世界食料支配が行われようとしているという危機感があるからだ。

この本の目次に明かな寄稿者40人が、その危機の背景を分析し、これに対決する農業・環境政策の具体的転換、現地の実践を提言している。たとえば、百一歳の農業経済学者近藤康男は「世界平和のため」を説き、東京農工大学梶井功学長は「不測の事態でも飢えさせない農業施策を」求めている。また農村の現場からは山形の山村に生きる栗田和則、産直運動をつづけている宮城の佐々木陽悦、千葉船橋の斉藤敏之の永年の実践はその可能性を伝えている。そのほか多くの研究者は食料自給を支える資源・技術・国土政策を提言している。

要約すれば、「食料主権・食料自給なくして一国の独立もなく、世界の平和も維持できない。また国土・環境の保全是食料の自給政策によって達成できる。そして消費者も毎日の食事の選択と知恵が食料主権を守る途だ」と説いている。

その大きな役割として「消費者主権」がある。食品の安全性を求めた消費者のニーズがいま世界を動かしている。具体的例がホルモン牛肉、ダイオキシン汚染食品、遺伝子組み換え（GM）食品の拒否である。

ヨーロッパではとくにGM食品の禁止運動が盛んだ。日本でもGM食品への対応は速い。大豆製品の表示。非GM原料への転換は、ビール会社や食品業界、流通業界まで消費者ニーズに動かされている。

こうした世界的動きにアメリカもGM作物を食品メーカーが使用を控え、カーギルなどの穀物メジャーも分別集荷を強化し、生産者もGM作物の作付けを控えるまでになっている。

いままで弱い立場の消費者が食料主権を発揮する時代になろうとしている。

長寿社会に赤信号、それを防ぐのは消費者であるあなた自身の食料主権の主張である。日本の食料生産者も食品加工・物流業者もそれに対応していかなければならないときである。

山崎農業研究所は今年創立25周年を迎える。この永年の会員の研究活動の成果がここに結晶して内外に農業・食料・環境問題への提言となった。

発売元：農文協 定価1500円

*山崎農業研究所会員は2割引き（1200円）で提供します。

（書店にない場合は直接03-3357-5916へお申込下さい）

なお、今後山崎農業研究所の『耕』その他会員の図書も農文協・農業書センターで取り扱う予定です。くわしくは「田舎の本屋さん」のHPをご覧ください。

<http://www.ruralnet.or.jp/shop/>

<農業・国際情報>WTOにたいするNGO国際シンポ

2月20日早稲田大学国際会議場で欧州・アメリカ・アジアのNGO（非政府組織）の第一線活動家を招き、日本の市民団体による「WTO（世界貿易機関）に関する国際シンポジウム」が開かれた。

議場には農民、消費者、労働組合員、自治体、文化人、大使館関係者、国際通信社、など500人以上が参加した。

パネリストからはどの国も農業経営がきびしくなっていることがあきらかにされ、それぞれ次のような発言があった。

「食料は単なる貿易商品ではない。国の基本的権利である食料主権を国際的に認知させよう」（イタリア、1996年ローマNGOフォーラム議長 アントニオ・オノラティ氏）

「アメリカの農民も犠牲、農家と消費者の連帯を」（アメリカ農業・貿易政策研究所代表マーク・リッチー氏）

「韓国の農業危機はWTOで輸入農産物がふえ農家の所得が低下、穀物自給率も30%以下に急落している。韓国でも「投資協定・WTO反対国民行動」を組織しひろい分野のひとが参加している」（韓国・全国農民会総連盟事務総長 劉相郁氏）

「安い輸入木材で日本の山林は疲弊し、山河は荒れ果てています。持続的な森林管理に価値評価をあたえ国土保全の点から産業を維持する見地が必要です」

（三重県・速水酢林業代表 速水亨氏）

「21世紀は食料危機が目に見えているのにWTOは生産を刺激する政策をなぜ禁止するのか。私たちはWTO協定の根本的改定を求めます」

（農民運動全国連合会代表常任委員 小林節夫氏）

<http://www.nouminren.ne.jp/>

事務局：「国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会」

くわしくは2月21日号の『しんぶん赤旗』をご覧ください。

<http://www.jcp.or.jp/Book/Akahata/>

<新聞・図書情報>

◎「日経流通新聞」2月19日号10頁「先探人」に7段抜きで、原田勉さん「74歳、メールマガジン発行」農を通じ世代交流”耕す” という記事が紹介されました。写真はパソコンの前でインターネットを操作する場面とメルマガ『電子耕』のHP画面です。

取材記者はエピローグで次のように記す。

「さぞかしハイテクおじいちゃんなのだろう」と想像したが、実際会った原田さんは「普通のおじいちゃん」だった。しかし農業や政治の話題になると会話が自然と熱を帯びる（中略）。記者は25歳その3倍の年月にはぐくまれた原田さんの見識がネットを通じて投げかけられている。そのボールをどのように受けとめ、どんな意見を投げ変えすのか。自分の世代の課題に思えてきた。

（岸名章友）

◎日本医療企画の健康情報紙「ヘルス&ケア」タブロイド判の新聞発行10万部3月1日号：お元気シルバー登場「ネットを通じ世代をつなぐ 75歳の現役ライター 原田勉さん」（見出しだけ紹介します）

○読者層は20～40代 若者の反応にびっくり

○脳内出血もネタに

○若い人に学ぶ絶好のチャンス

コメント：取材はフリーの女性（YKさん）でしたが、前から『電子耕』を読んでいたというので、分かりが早かったし、話した以外にもバックナンバーで退院の日に読んだ3句を引用したのには舌を巻いた。その他のメルマガも20本くらい読んでいて、インターネットからの情報収集力抜群。これからジャーナリストもインターネットを駆使できる人が頭角を現すと予測されます。

日本医療企画

<http://www.jump.co.jp/>

「ヘルス&ケア」

<http://www.jump.co.jp/heltop.html>

●メール送付の際のご注意案内↓

<http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail>

■■■■■ 劇団文化座 第110回公演
■■■□ 原作 葉月奈津・若林尚司 脚本 八木柗一郎 演出 鈴木完一郎
■■□□ 「英国貴族軍人が変体仮名で綴る千の恋文」より
■□□□ 【 遠い花 ―汝が名はピーチ・ブロッサム― 】
□□□□ 公演／2000年3月16日～26日 六本木俳優座劇場
□□□□ 全席指定 一般 5,000円 (+消費税 250円)
□□□□ <http://bunkaza.com/peach2000.html>

— P R —

■劇団文化座2000年度 新人募集！
<http://bunkaza.com/recruit2000.html>

■山崎農研発行の書籍のご案内
http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_books.htm

●協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」
<http://www.ruralnet.or.jp/>
「山崎農業研究所」
http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_frame.htm
「劇団文化座」
<http://bunkaza.com/>

ここまで読んでいただきありがとうございました。

■ご意見・ご感想は、Eメール
<mailto:tom@nazuna.com>
または、電耕掲示板
<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>
までお願いします。

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。
『まぐまぐ(ID=14872)』
<http://www.mag2.com/>
『Macky !』
<http://macky.nifty.ne.jp/>

SPECIAL THANKS to INTERNET JAH

<http://www.jah.ne.jp/>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

【隔】週刊「74歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第27号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.3.2（木）発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

*****発行部数 1352+52 部*****ここまで『電子耕』*****